

# まとめレポート

～運用環境振り返り編～

## 国内株式および国内債券市場 2019年10月～12月

### 運用先市場の状況

作成基準日 2019年12月30日

#### ○国内市場

##### ・株式市場

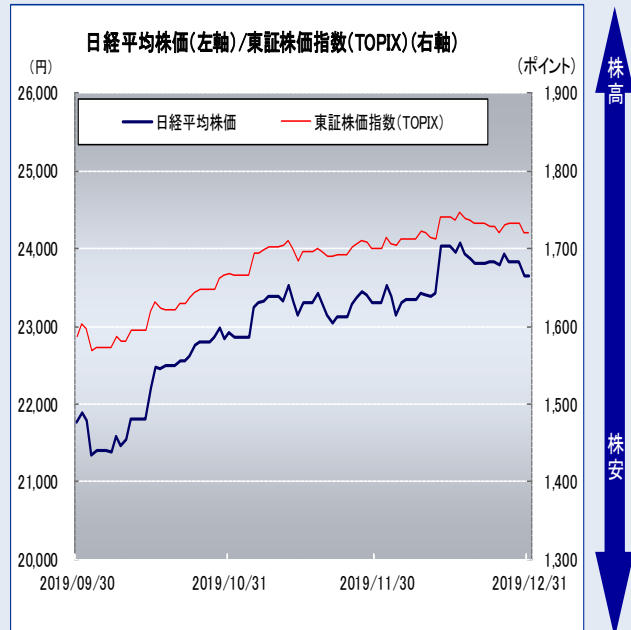
###### 【コメント】

国内株式は上昇しました。

10月は、低調な米国経済指標を受けて軟調に推移する局面があったものの、米中貿易協議が部分的合意に達し、米中対立激化による世界景気への下押し懸念が一旦後退したことを受けて、持ち直す展開となりました。

11月は、堅調な米国雇用統計や国内企業の好調な7-9月期決算に加え、トランプ米大統領が対中制裁関税の一部撤回を検討しているとの報道を受けて、上昇しました。下旬は、米国での「香港人権・民主主義法」の成立を受けて、米中協議の先行きを警戒する見方から、方向感を欠く展開となりました。

12月は、米中が貿易交渉について第一段階の合意に至ったことや、英総選挙における与党勝利によってEU(欧州連合)離脱を巡る不透明感が後退したことを受けて、上昇しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

##### ・債券市場

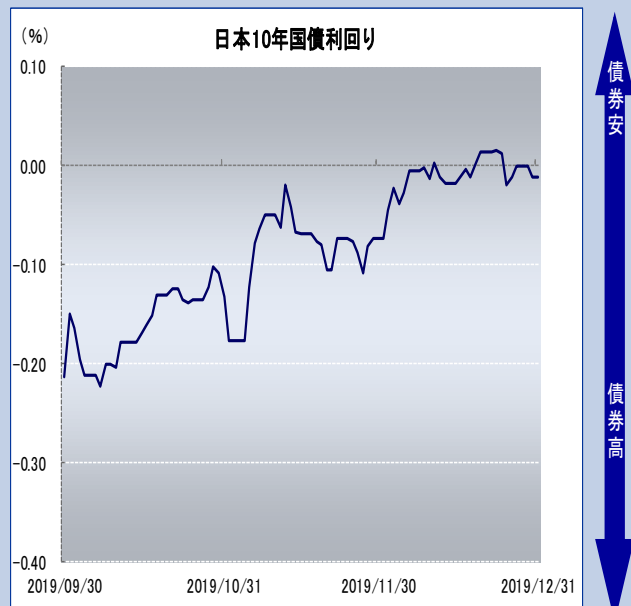
###### 【コメント】

長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。

10月は、米中通商交渉進展への期待や英国の合意なきEU(欧州連合)離脱への懸念後退を背景に海外金利が上昇基調となるなか、国内でも追加緩和期待が後退し、長期金利は上昇しました。日銀の金融政策決定会合では、政策金利の見直しをやや緩和方向に修正したものの、金融政策は維持されました。

11月は、米中通商交渉の第一段階合意への期待が高まり追加緩和観測が後退し、長期金利は上昇基調となりました。その後は、米中通商交渉の進展に対する楽観的な見方が後退し、下旬にかけて徐々に金利上昇幅を縮小しました。

12月は、米中通商交渉で第一段階の合意が成立すると、株高・債券安の流れのなかで長期金利は一時+0.01%と小幅プラス圏へ上昇する場面もありました。月末にかけては、海外金利の上昇傾向がやや和らぐなか、小幅マイナス圏で引けました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841**

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

# まとめレポート

～運用環境振り返り編～

## 外国株式および外国債券、為替市場 2019年10月～12月

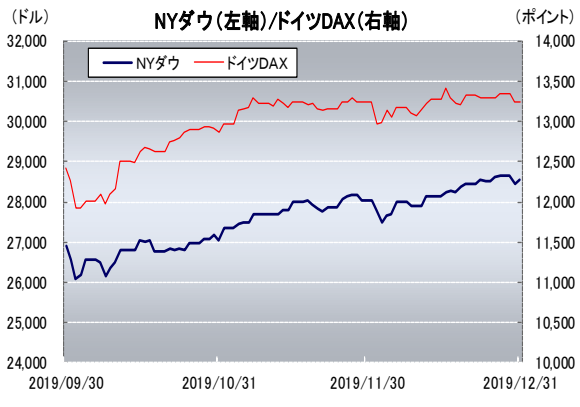
### 運用先市場の状況

作成基準日 2019年12月30日

#### ○外国市場 ・株式市場

##### 【コメント】

米国株式市場は上昇しました。  
10月は、米中通商交渉の部分的合意の報道で市場に安心感が広がり上昇しました。FOMC(米連邦公開市場委員会)では、前月に続いて今年3回目の利下げが実施されました。11月は、米中通商交渉の第一段階合意への楽観的な見方が強まり上昇しましたが、下旬に米国で「香港人権・民主主義法」が成立する見通しが高まったことや、先行きの利下げ期待が後退したことから、一時下落しました。12月は、好調な雇用統計や、米中両国が第一段階の合意に達したと発表したことで、堅調な相場展開となりました。  
欧州株式市場は上昇しました。  
概ね米国と同様の動きとなりましたが、英国のEU離脱に対する不透明感の後退が、上昇要因となりました。

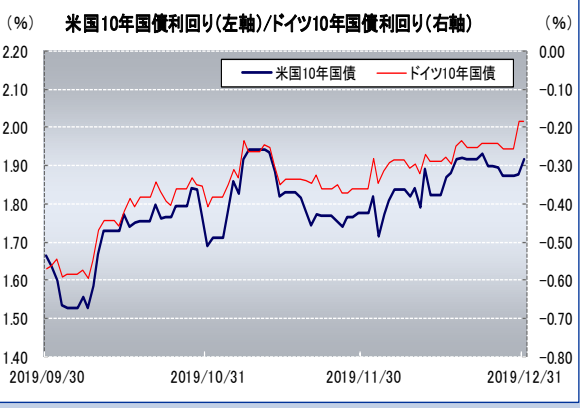


↑ 株高  
↓ 株安

#### ・債券市場

##### 【コメント】

米国長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。  
10月は、米中間級協議に対する期待が高まり、上昇しました。月末のFOMC(米連邦公開市場委員会)においては、利下げが実施されました。利下げの終了を示唆する内容となったものの、早急な利上げも否定されたことから金利は低下しました。11月は、米中通商協議進展に対する期待が高まったことから金利は上昇しました。その後、香港の民主化デモが激化する中、米中通商協議に対する楽観的な見方が後退し、金利は低下に転じました。12月は、米中通商協議における第一段階の合意が発表されたことで金利は上昇しました。  
ドイツ長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。  
概ね米国と同様の動きとなりました。

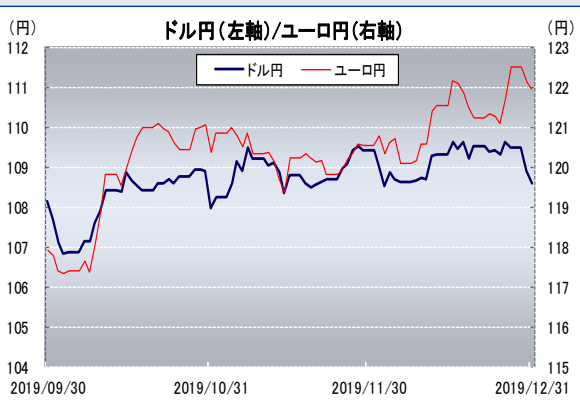


↑ 債券安  
↓ 債券高

#### ○為替市場

##### 【コメント】

米ドル/円は小幅に円安、ユーロ/円は円安となりました。  
10月は、米中間級協議で部分的合意に至ったことや、英国のEU離脱に対する警戒感が後退するなかで、円が弱含みで推移しました。  
11月は、米ドルは米中通商協議進展への期待を背景に、堅調に推移しました。ユーロは景気の先行き懸念が根強い中、軟調な展開となりました。  
12月は、月初は、米中通商協議の進展に対する期待が後退し、リスク回避的な動きが強まったことで、対米ドル、対ユーロで円高となりました。その後、米ドル/円は、米中通商協議の合意を受けて米ドルが買い戻された後、揉み合い推移に転じました。月末にかけては米ドル安・円高となりました。ユーロ/円は、英国総選挙での保守党勝利を好感した英ポンド高につれて、ユーロ高・円安傾向で推移しました。



↑ 円安  
↓ 円高

**運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841**  
平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。